

痛の学

入門講座

◆ 49 ◆



森本昌宏（もりもと・まさひろ） 大阪なんばクリニック本部長。平成元年、大阪医科大学大学院修了。同大講師などを経て、22年から近畿大学医学部麻酔科教授。31年4月から現職。医学博士。日本ペインクリニック学会名誉会員。

固定術、椎間板摘出術）が行われている。私の外來では、星状神経ブロック、頸部硬膜外ブロック、腕神経叢ブロック、神経根ブロック（レントゲン透視や超音波を用いる）などを行い、良い治療効果を手けている。これらの神経ブロックは診断的意義もあり、神経根症と脊髄症と

Y子さん(57)は「3カ月前から左首、肩、腕が全部痛くて、指も痺れているんです」として私の外來を受診した。このような首、肩、腕に生じる痛みは「頸肩上肢痛」、「頸肩腕症候群」と呼ばれており、頸椎(首の骨)の異常によるものが多い。

Y子さんの場合は「3カ月前から左首、肩、腕が全部痛くて、指も痺れているんです」として私の外來を受診した。このような首、肩、腕に生じる痛みは「頸肩上肢痛」、「頸肩腕症候群」と呼ばれており、頸椎(首の骨)の異常によるものが多い。

脊髄症は椎間板の後方への突出や骨棘(軟骨が肥大、増殖し骨のように変化したもの)、後縦靱帯の骨化などによる物理的な圧迫によるものとして「五十肩」

に代表される肩関節の障害、「胸廓出口症候群」などもある。また、心臓疾患の関連痛として首の後ろ、肩に痛みを来すこともある

高齡化社会を迎えて、Y子さんのような痛みを訴えられる方は増加の一途をたどっている。かく言う私も頸椎椎間板ヘルニアに悩まされている一人である。痛みが起ると仕事も手につきなくなる。くしゃみをするだけで激痛が走るのだ。

頸椎椎間板ヘルニアの患者さんが受診されると、同病相あわれむで「お互い頑張りましょう」と手を握りたくなってしまう。しかし、むやみに手を引っ張ると痛みを誘発するので厄介だ。

加齢による首の骨の異常

首～肩～腕の痛み

頸椎を構成している要素の異常によるものとして「頸部変形性脊椎症」、「頸椎椎間板ヘルニア」、「後縦靱帯骨化症」などが中心であり、症状によって「神経根症」(ラディキユロパチー)と「脊髄症」(ミエロパチー)に大別される。

神経根症は、脊髄から出て腕に向かう神経が圧迫を受けて発症する。一方で、



ので、これらの鑑別も重要なこととなる。診断にあたっては、神経学的検査とともに、レントゲンやCT(コンピュータ断層撮影)、MRI(磁気共鳴画像装置)などによる画像診断を用いて異常部位とその程度を検索する。

治療法は原因によって異なるが、種々の薬物治療、理学療法、場合によっては手術(脊柱管開大術、前方

「神経ブロックは痛いだろうからまずはマッサージュやカイロプラクティックで

第1、3日曜日に掲載します。